

## RWCとは

ラグビーワールドカップ(RWC)は、4年に一度、ナショナルチームの世界一を決定するラグビー界最大の大会で、1987年に第1回ニューージーランド・オーストラリア大会が開催され、2019年の日本大会で9回目を迎えた。現在では、オリンピック、サッカーワールドカップと並び、世界三大スポーツイベントの一つとされている。

## RWC 2019 日本大会について

### 概要・意義

RWC 2019(第9回ラグビーワールドカップ日本大会)は、20カ国が参加し、2019年9月20日～11月2日にかけて、国内12会場で開催された。

本大会は、日本ではもちろん、アジアで初の開催であること、ヨーロッパや南半球のラグビー伝統国以外で初の開催であること、ラグビー(7人制)がオリンピック種目に採用されてから最初の開催であること、という点で大いに注目を集めた。

大会中は、世界の強豪による熱戦、名勝負が繰り広げられるとともに、日本代表チームの活躍もあって大きな盛り上がりを見せた。また、熱心なラグビーファン、海外からの来日客(24万人超)に加え、RWC 2019を契機にラグビーに関心を持つようになったいわゆる「にわかファン」が数多く試合会場を訪れ、概ね全試合で満席となり、RWC史上最大となる約6,464億円の経済波及効果が創出された。

日本や海外の選手、ファン、地域住民、子どもたちがおもてなしや感謝の気持ちで国際交流し、相互理解が深まった。

これらの様子は、メディアやSNSを通じて全世界に発信され、世界中から高い関心と注目を集めた。

### 大会ビジョン

**「絆 協創 そして前へ」**  
Connect Create Go Forward

日本と世界の人々を強い絆で結び、  
誰も経験したことのない、  
ラグビーと仲間たちの祭典を協創しよう。  
すべての人の輝く未来へ、進もう心ひとつに。

### 大会公式キャッチコピー

**4年に一度じゃない。  
一生に一度だ。**  
— ONCE IN A LIFETIME —

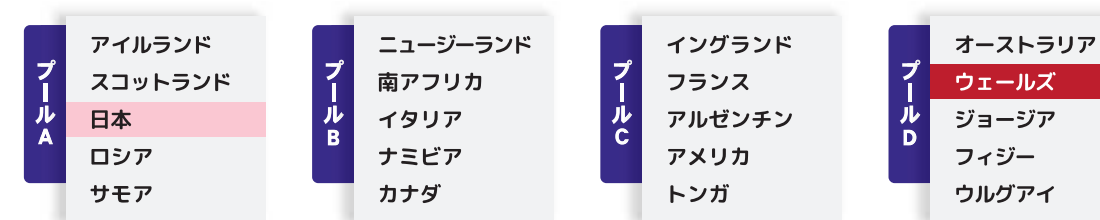
### 開催都市

12都市(札幌市・岩手県・釜石市・埼玉県・熊谷市・東京都・神奈川県・横浜市・静岡県・愛知県・豊田市・大阪府・東大阪市・神戸市・福岡県・福岡市・熊本県・熊本市・大分県)

## 試合形式

48試合(うち3試合は台風で中止)

① プール戦 / 20チームが、5チームごとの4プールに分かれて、総当たり戦を行う。



② 決勝トーナメント / 各プールの上位2チームの合計8チームが進出。



## 大会結果

優勝: 南アフリカ共和国  
準優勝: イングランド  
3位: ニューージーランド  
4位: ウェールズ  
※日本は初のベスト8入りを果たした。

## 観客動員数

延べ170万4,443人  
1試合の平均観客数 37,877人

## チケット販売数

約185.3万枚を販売可能席としたうち、約99.3%に当たる約184万枚(中止の3試合を含む)が販売され、RWC開催史上、最高の販売率となった。

## ソーシャルメディア動画再生回数

ソーシャルメディアによる大会関連動画再生回数は、前回の2015年イングランド大会(3.7億回)と比較し、5倍以上の20.4億回に達した。

## テレビ視聴者延べ人数

世界におけるRWC 2019大会関連番組(試合中継、再放送、ハイライト番組)のテレビ視聴者延べ人数は、前回大会(6.8億人)より26%増加し、延べ8.6億人となった。

# ウェールズの紹介

## ウェールズという国について

**ウェールズはイギリスを構成する4つの国のひとつ**

イギリス国旗

スコットランド

北アイルランド

イギリス

イングランド  
● ロンドン

ウェールズ

### DATA

- 面積 ● 20,782 km<sup>2</sup> (日本の四国くらい)
- 人口 ● 約300万人 (羊は約900万頭)
- 首都 ● カーディフ市 (約35万人)
- 公用語 ● 英語、ウェールズ語
- 産業 ● かつては鉱業や重工業  
/ 現在は観光などのサービス業や高度な製造業。日本企業の誘致も熱心に行う



ウェールズは、英国を構成する4つの国の一つで国土面積の約20%が国立公園(3カ所)に指定されており、森林や湖、丘陵、海岸などの豊かな自然を有する国である。

18世紀頃から、石炭など豊富な鉱物資源を背景に工業が発達し、イギリスの産業革命を支え、20世紀前半の最盛期には、600以上の炭鉱で約20万人が働いていた。

その後、「エネルギー革命」で石炭産業が衰退する中、1970年代に入ると、日本企業の誘致にも力を入れながら伝統的な重工業から高度な製造業やサービス業へと大きく転換を図りつつ、金融や研究開発の分野も発展させてきた。

一方、農業も盛んである。その中心は伝統的に牧

畜であり、特に羊が有名で、ウェールズの人口よりも羊の方が多いと言われている。

また、ウェールズは「歌の国」ともいわれ、特に男声聖歌隊やハープ奏者が有名である。

国民の中で人気のスポーツはラグビーとサッカーで、とりわけ、国技であるラグビーの人気は熱狂的であり、ウェールズ人にとってアイデンティティの一部であると言われるほどである。

## ラグビーウェールズ代表について

赤いジャージーと国章に描かれた竜から「レッドドラゴン」と呼ばれるウェールズ代表は、世界的な強豪として名を馳せており、その活躍は、ウェールズ人の誇りとなっている。

代表チームの本拠地は約7万5千人収容のプリンシパリティ・スタジアムで、代表戦では常に満員となる。試合前には、観客によるウェールズ国歌「ランド・オブ・マイ・ファーザーズ」等の大合唱が響き渡る。

武骨なFWとランニングスタイルが伝統で、堅い防御とバックス陣を中心とした素早く展開するラグビーを得意とし、世界ランキング上位を堅持している。

RWCでは、3位となった第1回大会(1987年)以降、プール戦敗退が続いたが、その後チームの立て直しを図り、前々回大会(2011年)では4位、前回大会(2015年)では8強入りを果たしている。

さらに、RWC直前の2019年シックスネーションズ(欧州6カ国対抗戦)では、5戦全勝のグランドスラムを達成し6年ぶりの優勝を果たした。そして2019年8月の世界ランキングでは、同国史上初の1位となり、RWC2019の優勝候補に堂々と名を連ねた。

RWC2019では、プール戦を4戦全勝とした後、準決勝まで勝ち進んで、最終的に4位という好成績を収めた。(詳細は40ページ参照)



ウェールズラグビー協会(WRU)  
エンブレム  
「スリーフェザーズ」



### ウェールズのRWC成績

第1回大会(1987年)	3位
第2回大会(1991年)	プール戦敗退
第3回大会(1995年)	プール戦敗退
第4回大会(1999年)	ベスト8
第5回大会(2003年)	ベスト8
第6回大会(2007年)	プール戦敗退
第7回大会(2011年)	4位
第8回大会(2015年)	ベスト8
第9回大会(2019年)	4位

### ウェールズ代表のラグビー世界ランキングの推移

時期	ランキング	説明
2016年11月19日	6	北九州市と事前キャンプに関する覚書を締結
2019年8月19日	1	ウェールズ初の世界ランキング1位
9月20日	5	RWC2019開幕時
10月14日	2	RWC2019 プール戦で全勝後(大会中の最高位)
11月4日	4	RWC2019閉幕後